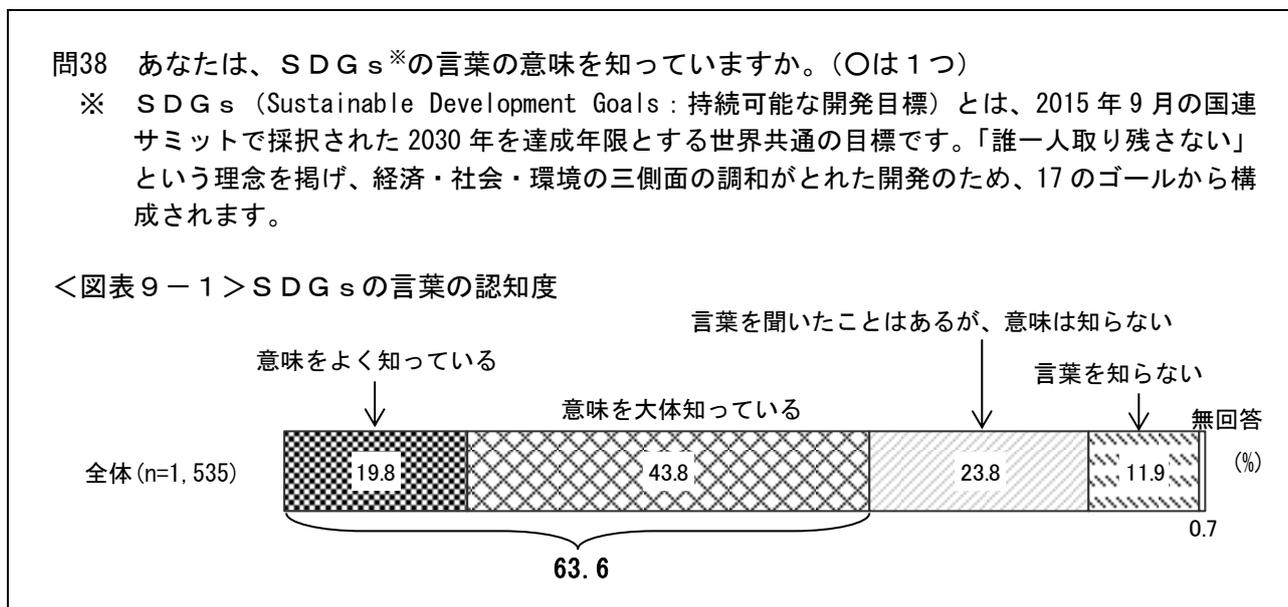


## 9 SDGs・多様性尊重等について

### (1) SDGsの言葉の認知度

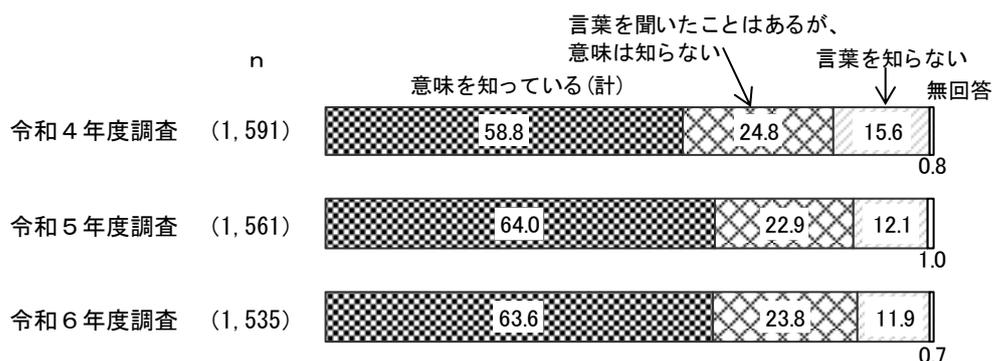
◇『意味を知っている（計）』が6割台半ば



SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」（19.8%）と「意味を大体知っている」（43.8%）を合わせた『意味を知っている（計）』（63.6%）が6割台半ばとなっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（23.8%）が2割台半ば、「言葉を知らない」（11.9%）が1割を超えている。（図表9-1）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

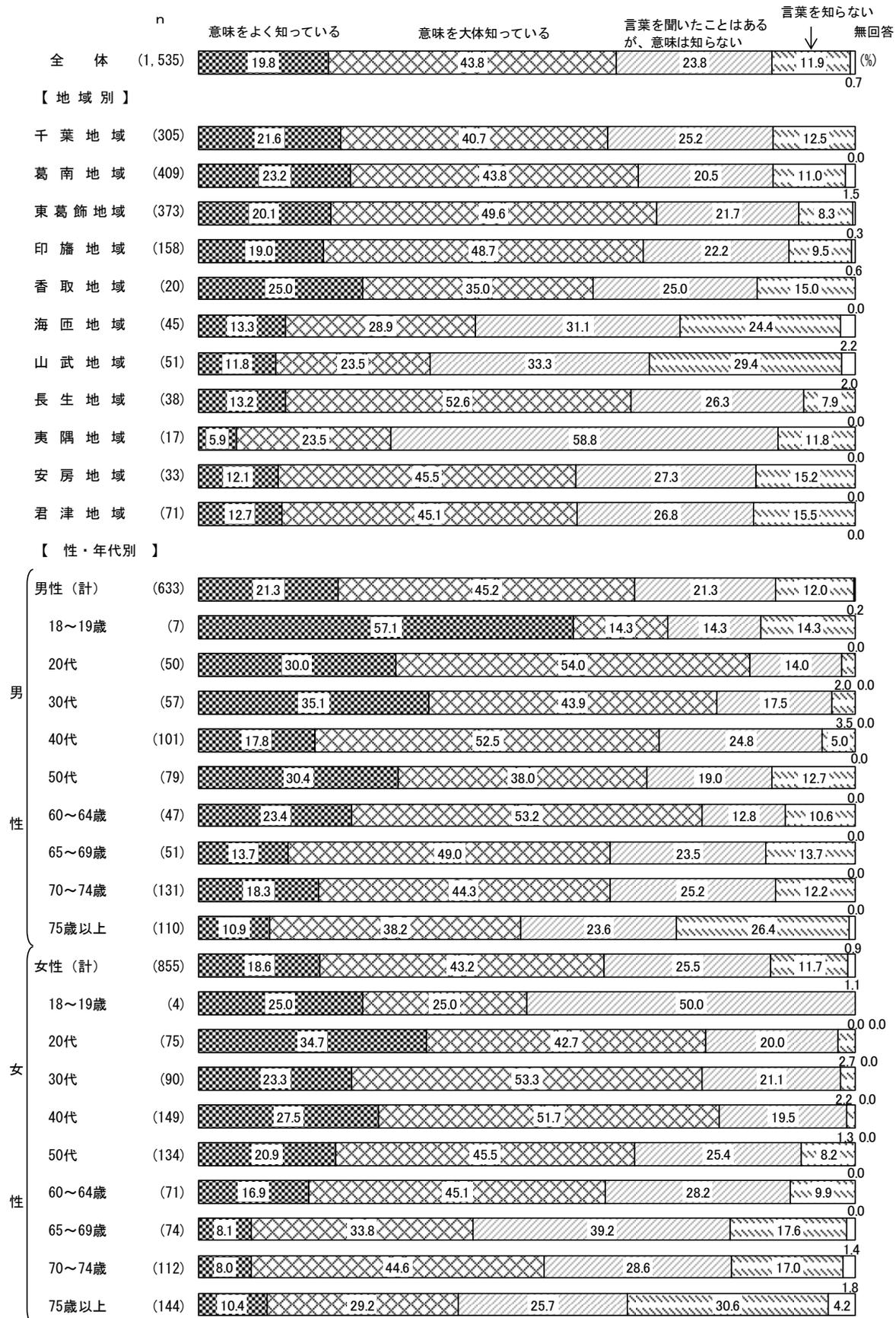
地域別にみると、『意味を知っている（計）』は“東葛飾地域”（69.7%）が約7割で高くなっている。一方、「言葉を知らない」は“山武地域”（29.4%）が約3割、“海匝地域”（24.4%）が2割台半ばで高くなっている。（図表9-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は男性の20代（84.0%）が8割台半ば、女性の40代（79.2%）、男性の30代（78.9%）、女性の20代（77.3%）が約8割、女性の30代（76.7%）が7割台半ばで高くなっている。

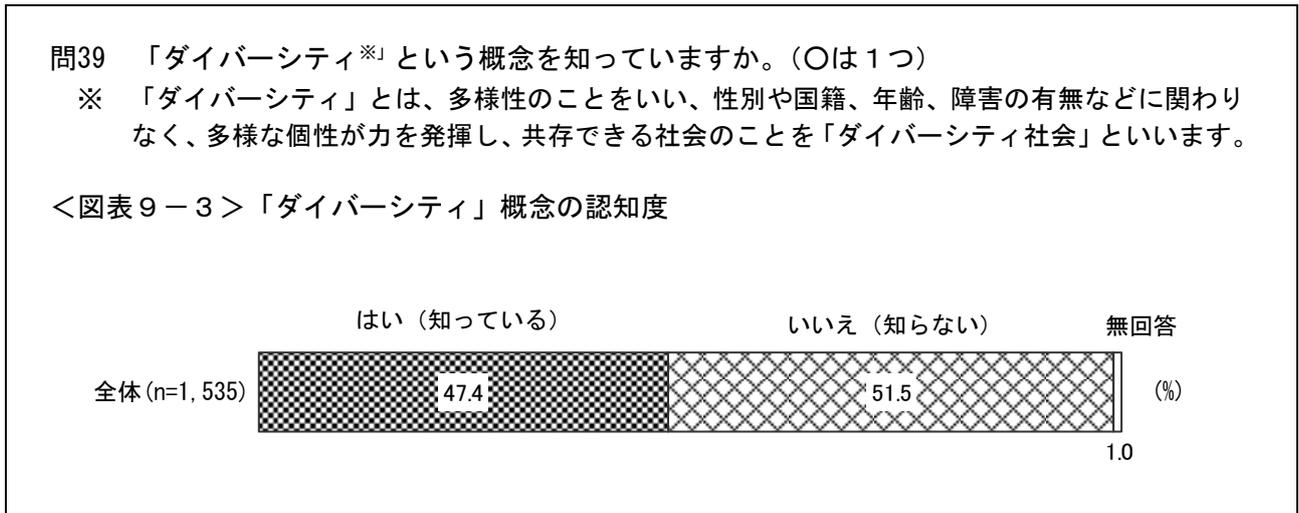
一方、「言葉を知らない」は女性の75歳以上（30.6%）が3割、男性の75歳以上（26.4%）が2割台半ばで高くなっている。（図表9-2）

<図表9-2>SDGsの言葉の認知度／地域別、性・年代別



## （2）「ダイバーシティ」概念の認知度

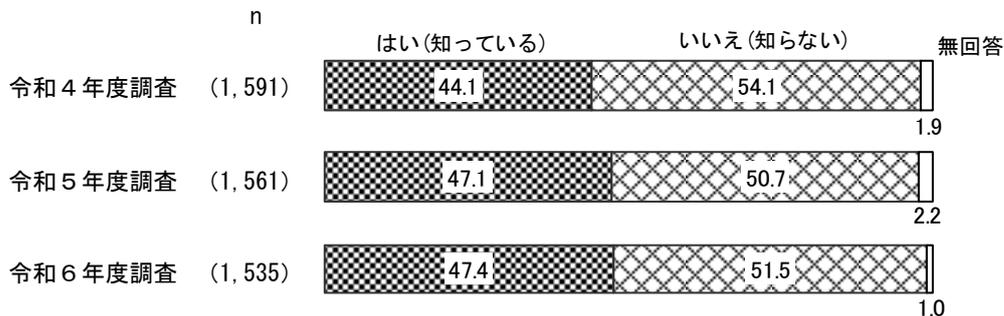
◇『はい（知っている）』が約5割



「ダイバーシティ」という概念を知っているか聞いたところ、『はい（知っている）』（47.4%）が約5割となっている。

一方、『いいえ（知らない）』（51.5%）が5割を超えている。（図表9-3）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



### 【地域別】

地域別にみると、『はい（知っている）』は“葛南地域”（54.3%）が5割台半ば、“東葛飾地域”（53.1%）が5割を超えて高くなっている。

一方、『いいえ（知らない）』は“山武地域”（68.6%）が約7割で高くなっている。

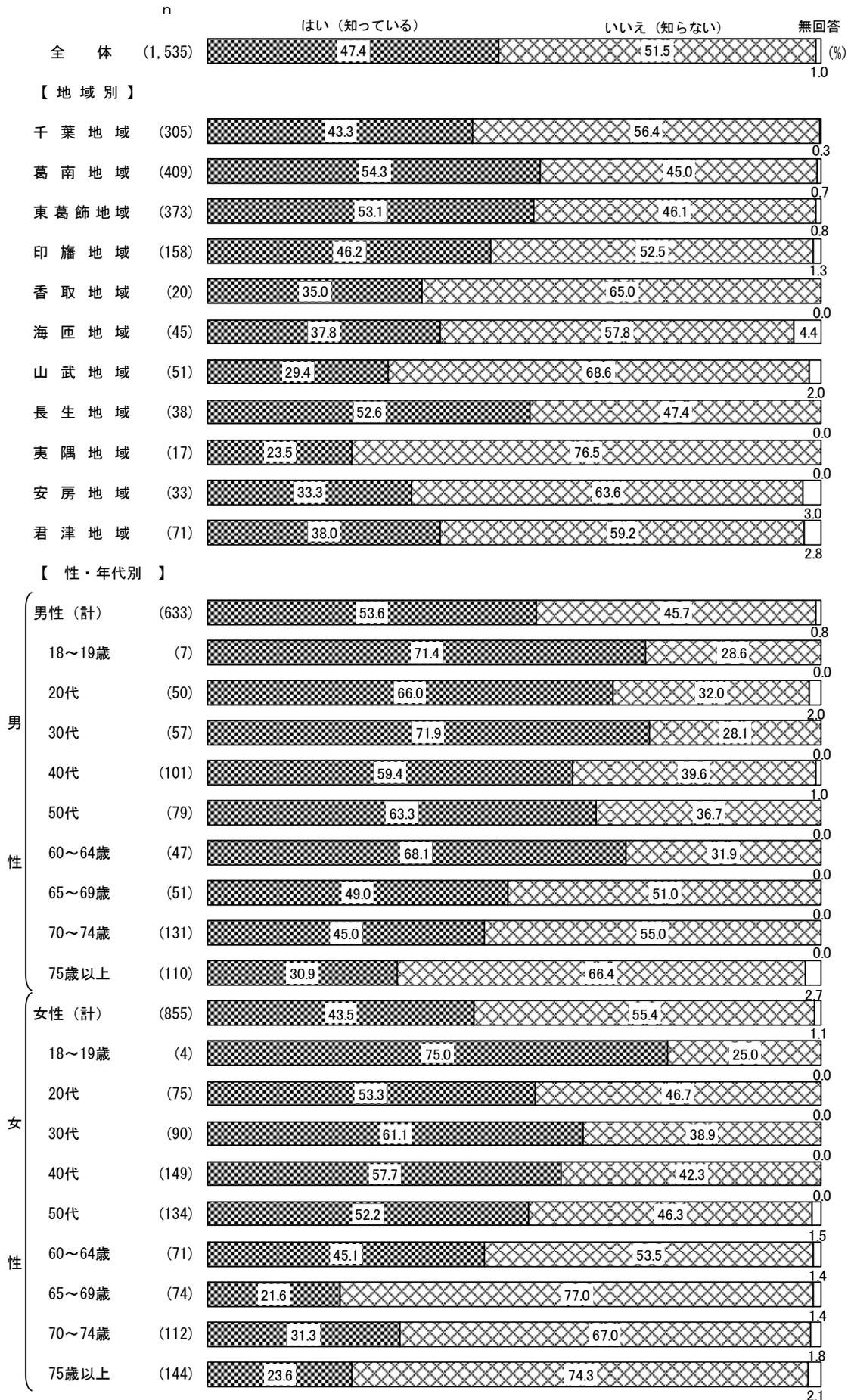
（図表9-4）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『はい（知っている）』は男性の30代（71.9%）が7割を超え、男性の60～64歳（68.1%）が約7割、男性の20代（66.0%）が6割台半ば、男性の50代（63.3%）と女性の30代（61.1%）が6割を超え、男性の40代（59.4%）と女性の40代（57.7%）が約6割で高くなっている。

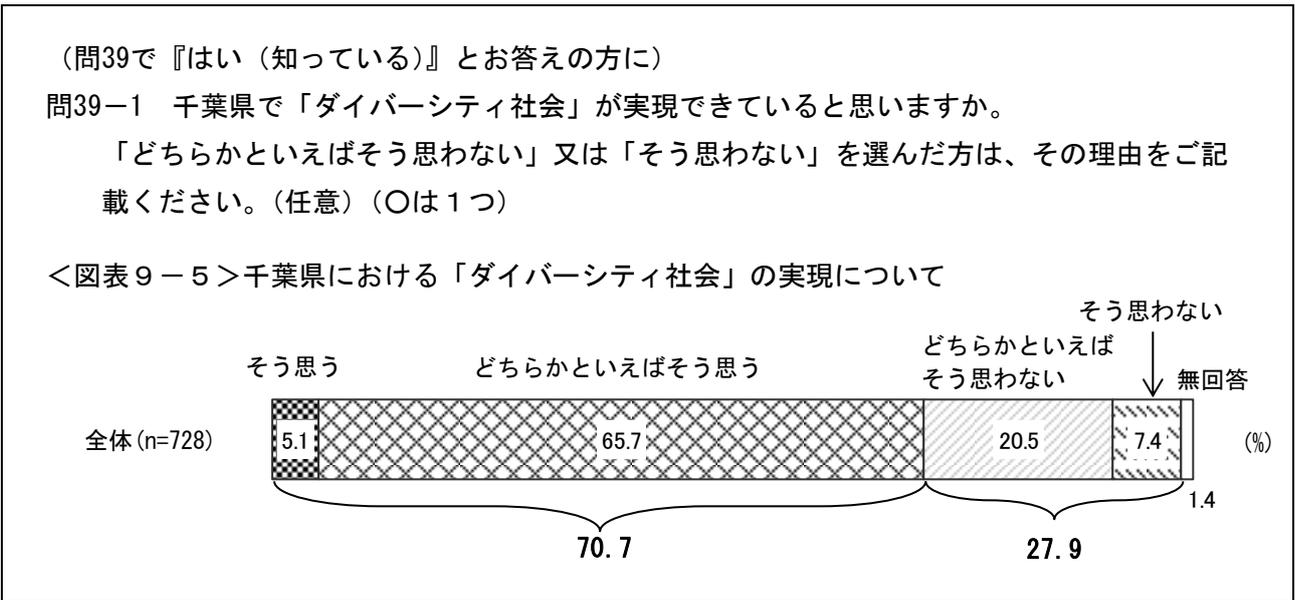
一方、『いいえ（知らない）』は女性の65～69歳（77.0%）が約8割、女性の75歳以上（74.3%）が7割台半ば、女性の70～74歳（67.0%）が約7割、男性の75歳以上（66.4%）が6割台半ばで高くなっている。（図表9-4）

<図表9-4> 「ダイバーシティ」概念の認知度／地域別、性・年代別



（2-1）千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

◇『そう思う（計）』が7割



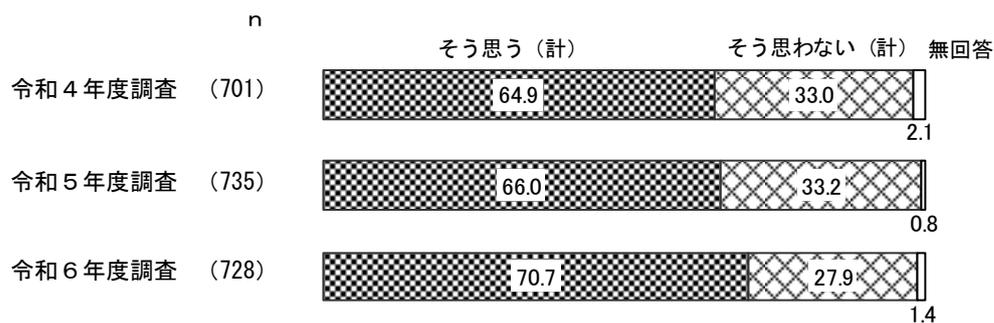
ダイバーシティの概念を知っている728人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(65.7%)を合わせた『そう思う（計）』(70.7%)が7割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(20.5%)と「そう思わない」(7.4%)を合わせた『そう思わない（計）』(27.9%)が約3割となっている。（図表9-5）

どちらかといえばそう思わない／そう思わないを選んだ人の理由は以下の通り。

- ・ダイバーシティ社会の実感がない／具体例を知らないため（40件）
- ・社会の取組みが進んでいない／浸透していないため（31件）
- ・多様性との共存が難しいと感じるから（15件）
- ・性別による格差があるため（13件）
- ・障がいによる差別があるため（13件）
- ・差別や偏見があるため／なくならないため（13件）
- ・国籍、人種、言語による差別があるため（7件）
- ・保守的な体制や考え方の人々が多いため（5件）
- ・地域によって差がある（3件）
- ・年齢による格差があるため（2件）
- ・行政ではなく個人で取組むべき（2件）
- ・わからない（6件）
- ・その他（17件）

〔参考〕 令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

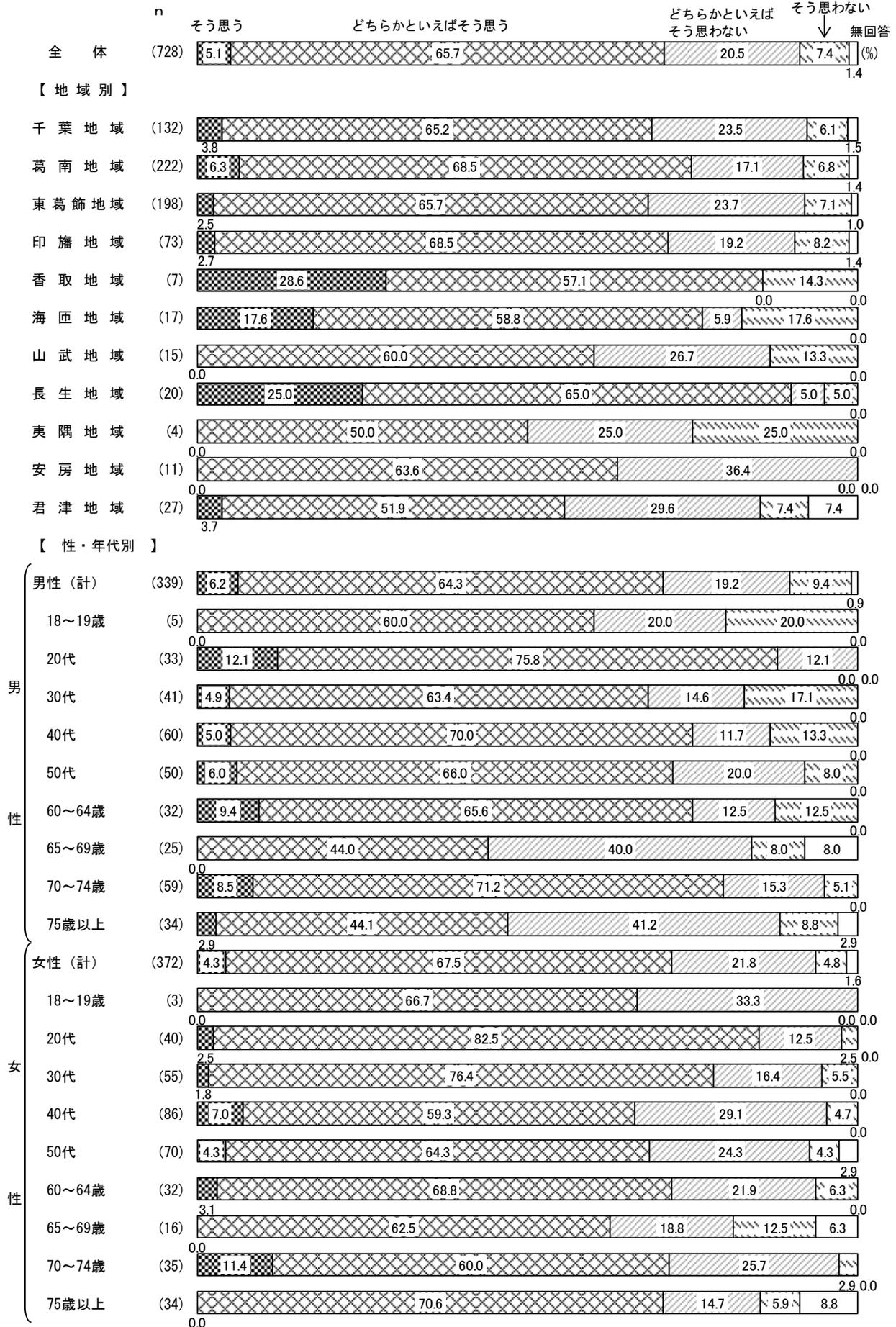
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表9-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の20代（87.9％）が約9割、女性の20代（85.0％）が8割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の75歳以上（50.0％）が5割で高くなっている。（図表9-6）

<図表9-6>千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について／地域別、性・年代別



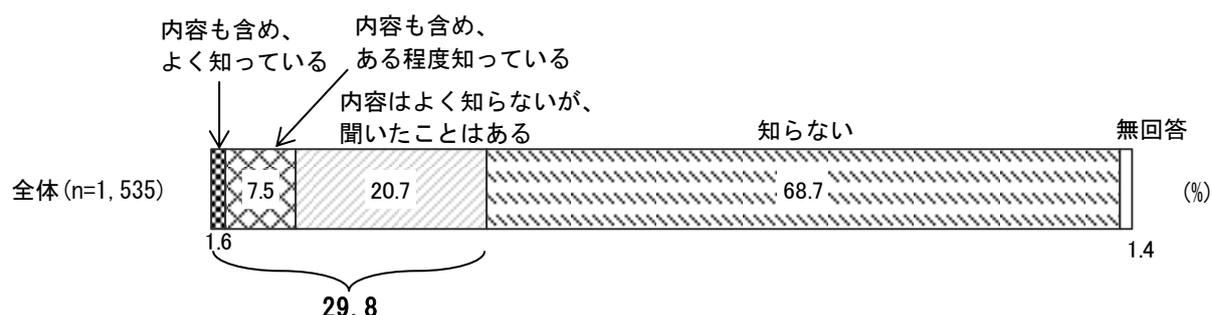
### （3）「多様性尊重条例」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が約3割

問40 あなたは、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」（多様性尊重条例※）を知っていますか。

※ 多様性尊重条例とは、あらゆる人々が差別を受けることなく、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、誰もが参加し、その人らしく活躍することができる社会の形成を推進するために制定した理念条例であり、令和6年1月から施行されています。

<図表9-7> 「多様性尊重条例」の認知度



「多様性尊重条例」について知っているか聞いたところ、「内容も含め、よく知っている」(1.6%)、「内容も含め、ある程度知っている」(7.5%)、「内容はよく知らないが、聞いたことはある」(20.7%)の3つを合わせた『聞いたことがある（計）』(29.8%)が約3割となっている。

一方、「知らない」(68.7%)が約7割となっている。(図表9-7)

#### 【地域別】

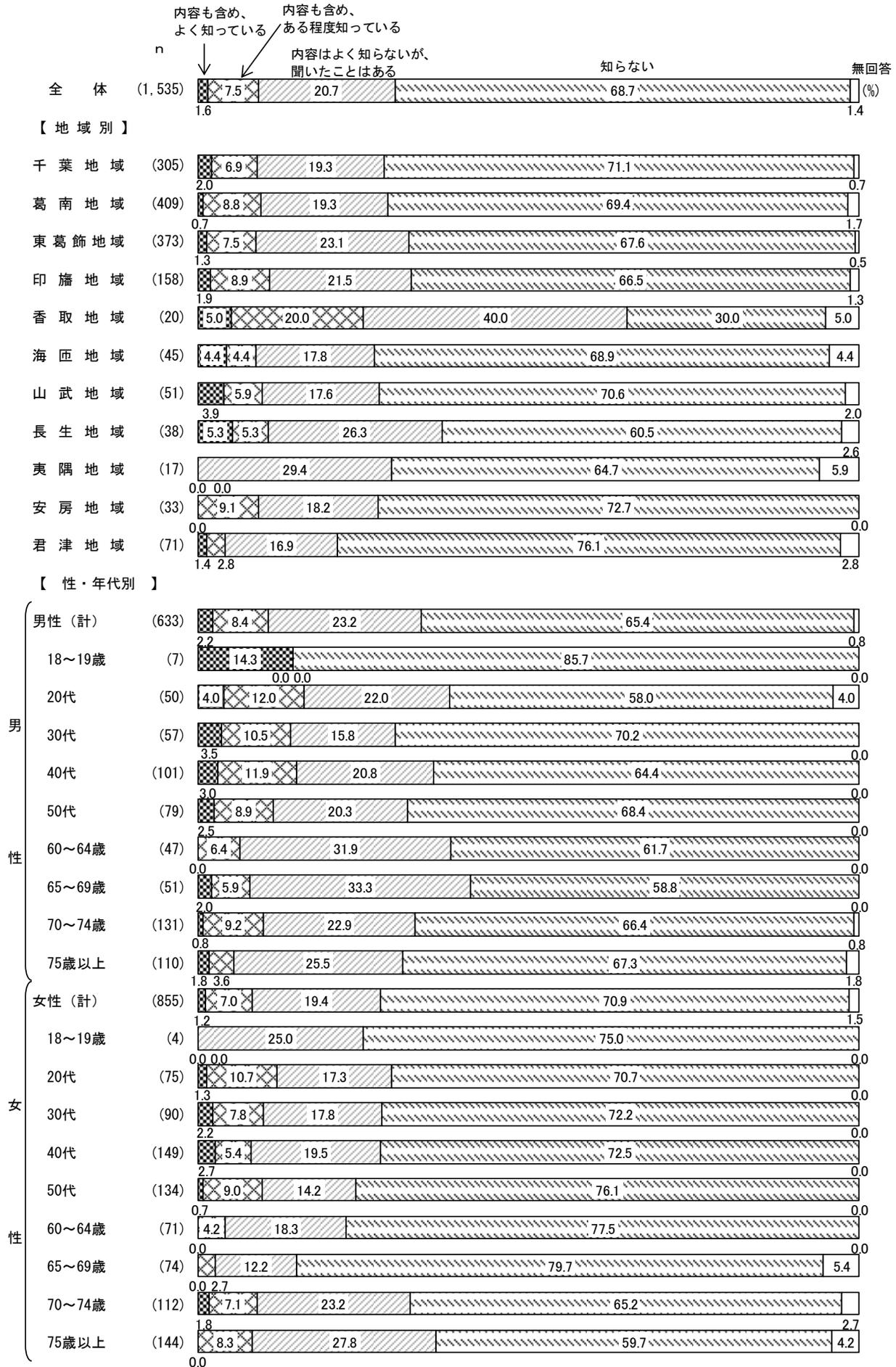
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-8)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知らない」は女性の65～69歳(79.7%)が約8割で高くなっている。

(図表9-8)

＜図表9－8＞「多様性尊重条例」の認知度／地域別、性・年代別



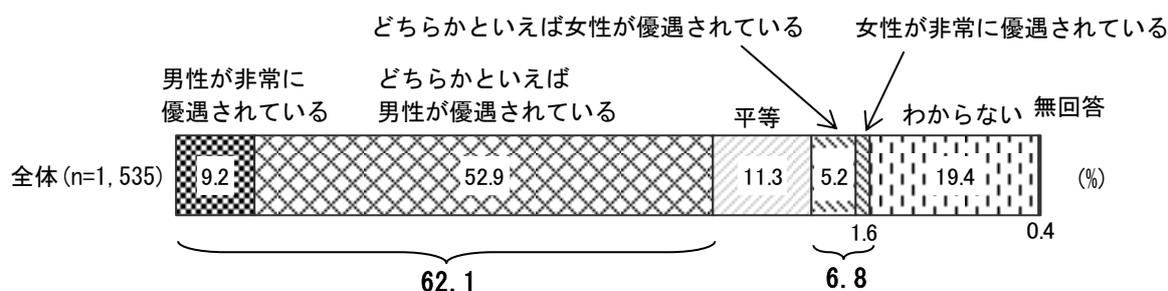
## （４）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が6割を超える

問41 社会全体※で男女の地位は平等になっていると思いますか。（○は1つ）

※ 社会全体とは、家庭、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度上、社会通念・慣習、地域活動の場等のあらゆる分野を想定しています。

＜図表9-9＞社会全体での男女の地位の平等感

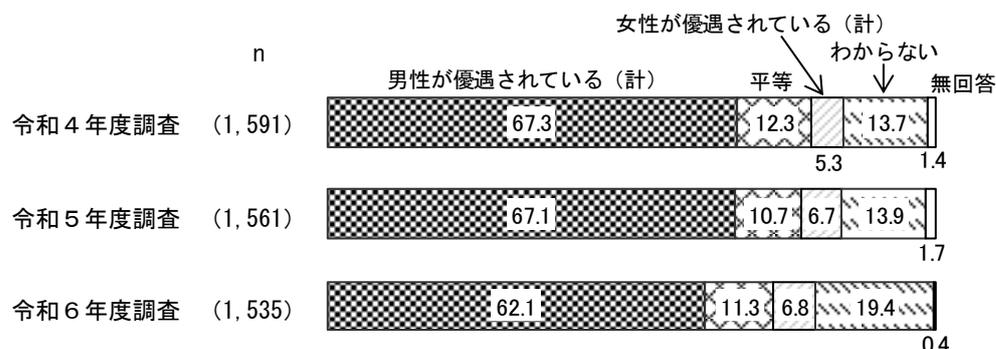


社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(9.2%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.9%)を合わせた『男性が優遇されている（計）』(62.1%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(5.2%)と「女性が非常に優遇されている」(1.6%)を合わせた『女性が優遇されている（計）』(6.8%)は1割未満となっている。

「平等」(11.3%)は1割を超えている。(図表9-9)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表9-10)

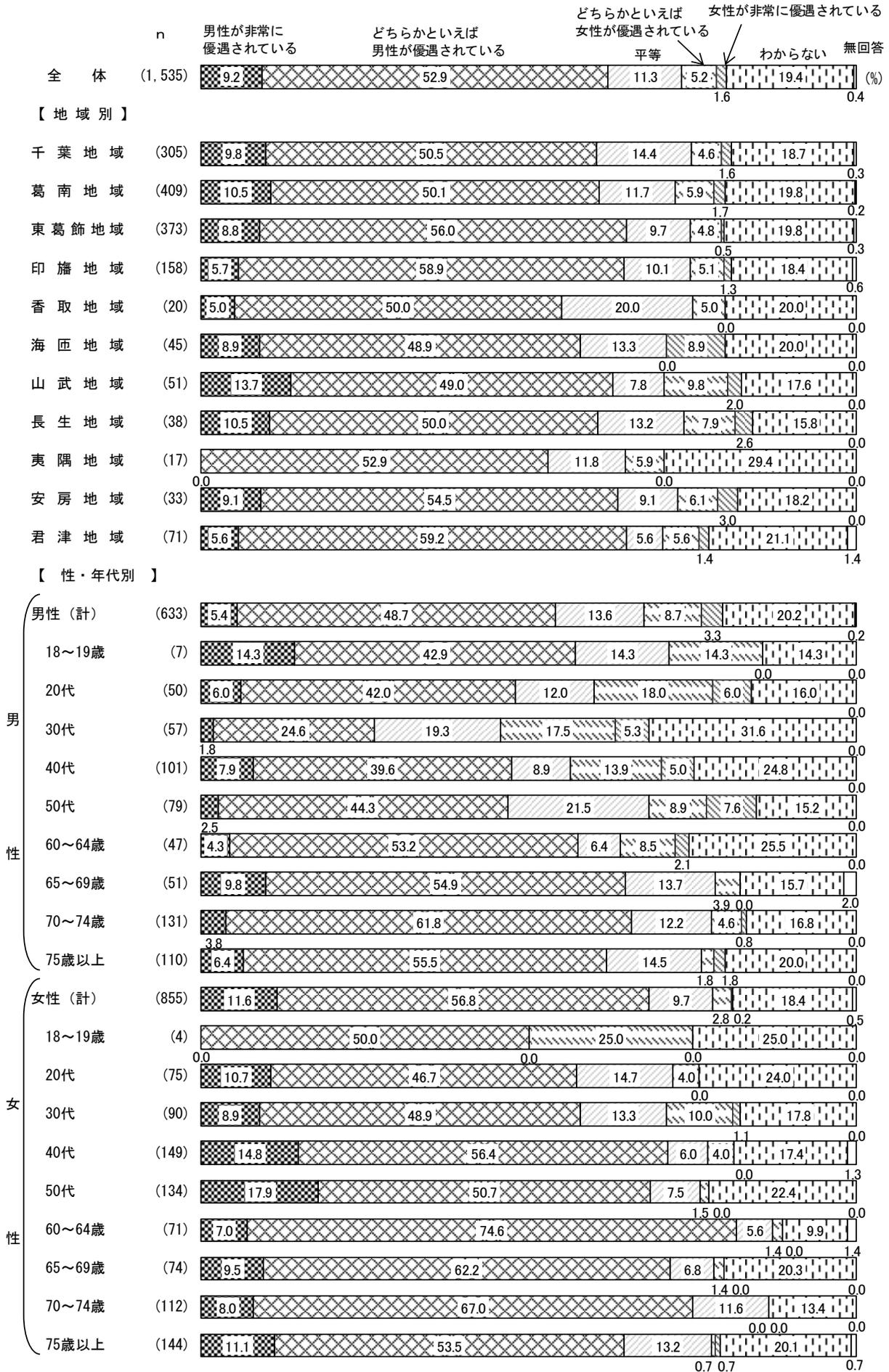
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性の60～64歳(81.7%)が8割を超え、女性の70～74歳(75.0%)が7割台半ば、女性の40代(71.1%)が7割を超えて高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の20代(24.0%)が2割台半ば、男性の30代(22.8%)が2割を超え、男性の40代(18.8%)が約2割、男性の50代(16.5%)が1割台半ばで高くなっている。

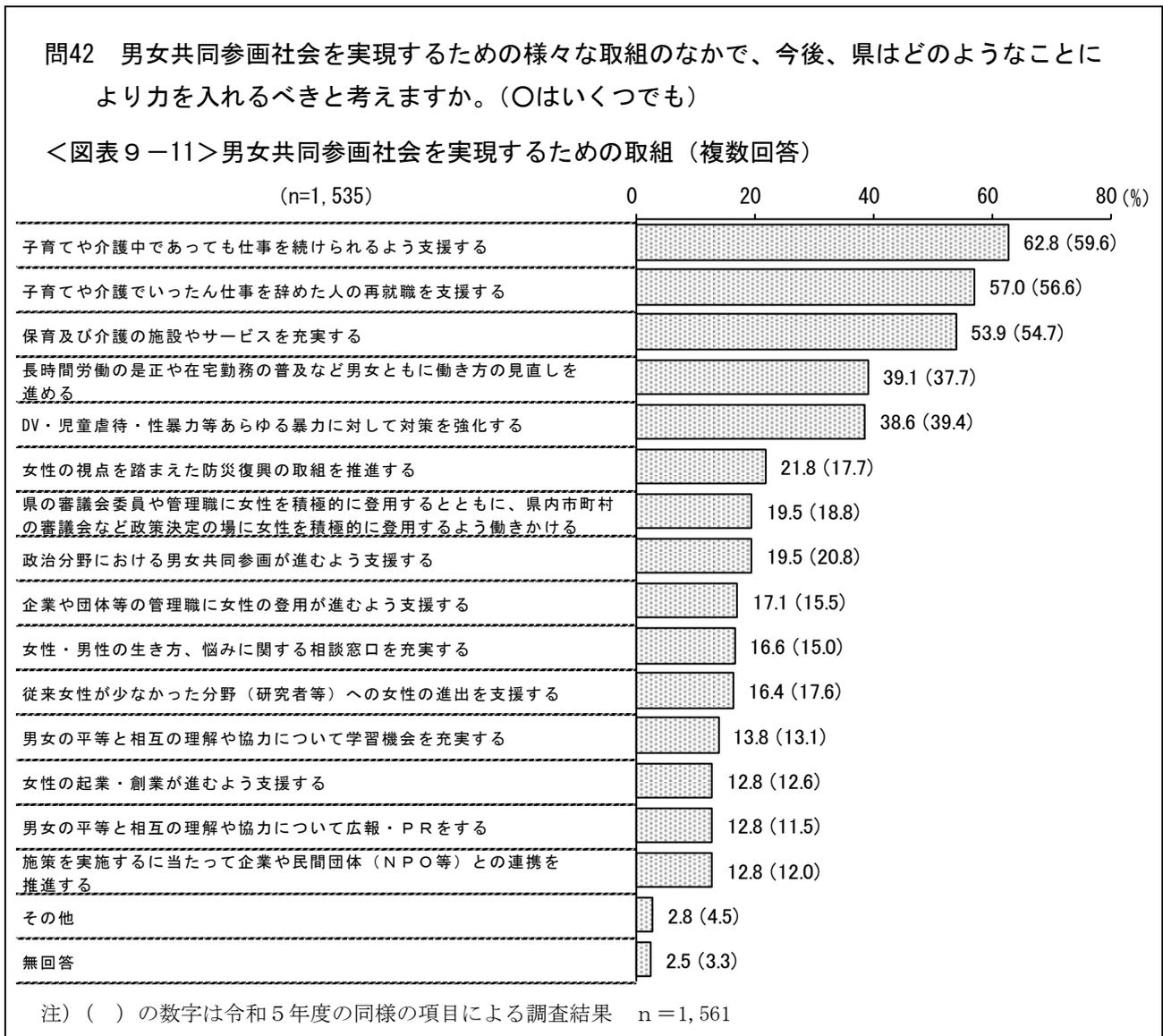
「平等」は男性の50代(21.5%)が2割を超えて高くなっている。(図表9-10)

<図表9-10>社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別



## （5）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が6割を超える



男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（62.8%）が6割を超えて最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（57.0%）、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（53.9%）、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（39.1%）が続く。（図表9-11）

### 【地域別】

地域別にみると、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は“山武地域”（72.5%）が7割を超えて高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は“安房地域”（72.7%）が7割を超え、“山武地域”（70.6%）が7割で高くなっている。（図表9-12）

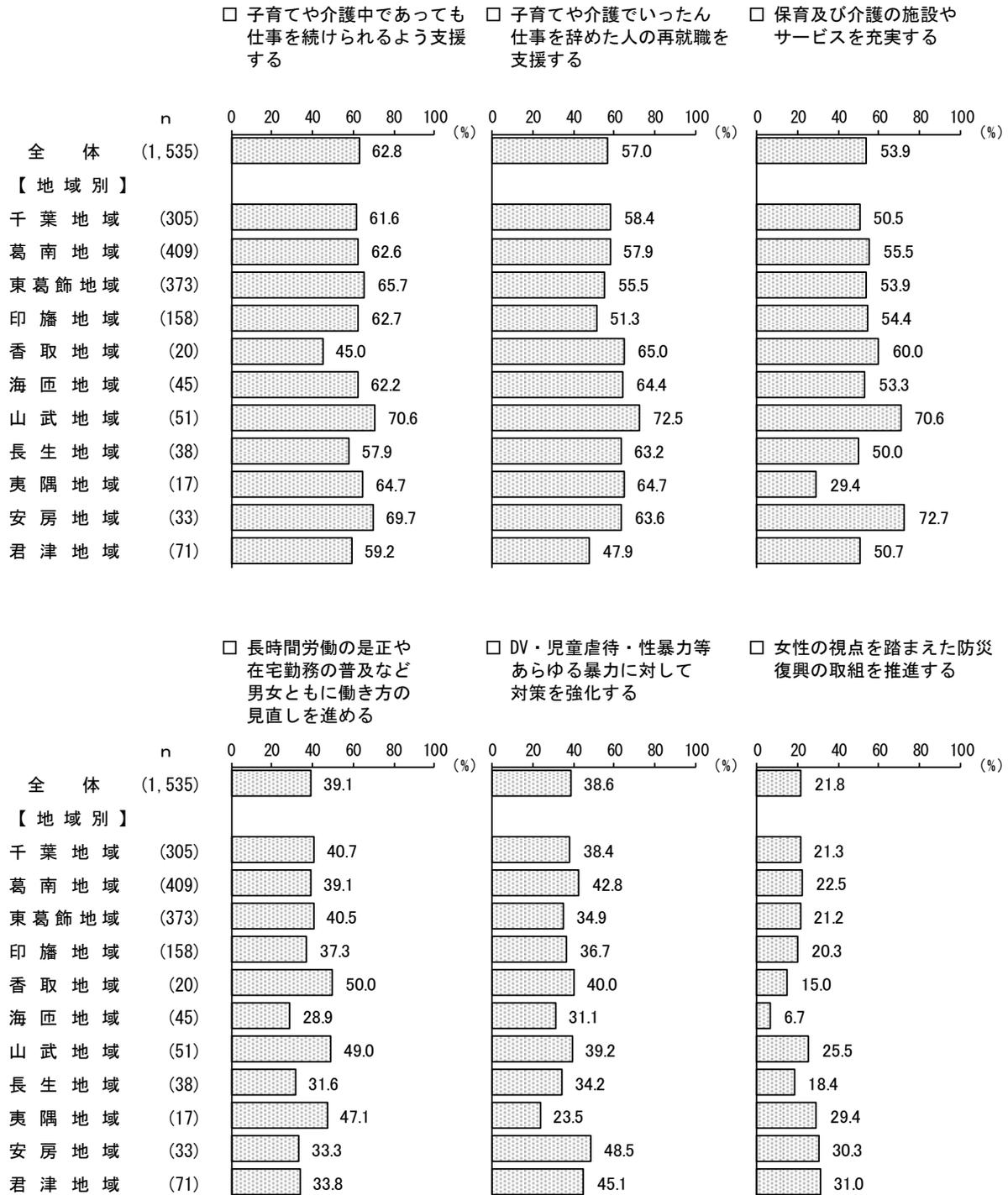
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の65～69歳（67.6%）が約7割で高くなっている。

「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の30代（63.3%）が6割を超え、女性の20代（57.3%）が約6割、男性の30代（54.4%）が5割台半ばで高くなっている。（図表9-12）

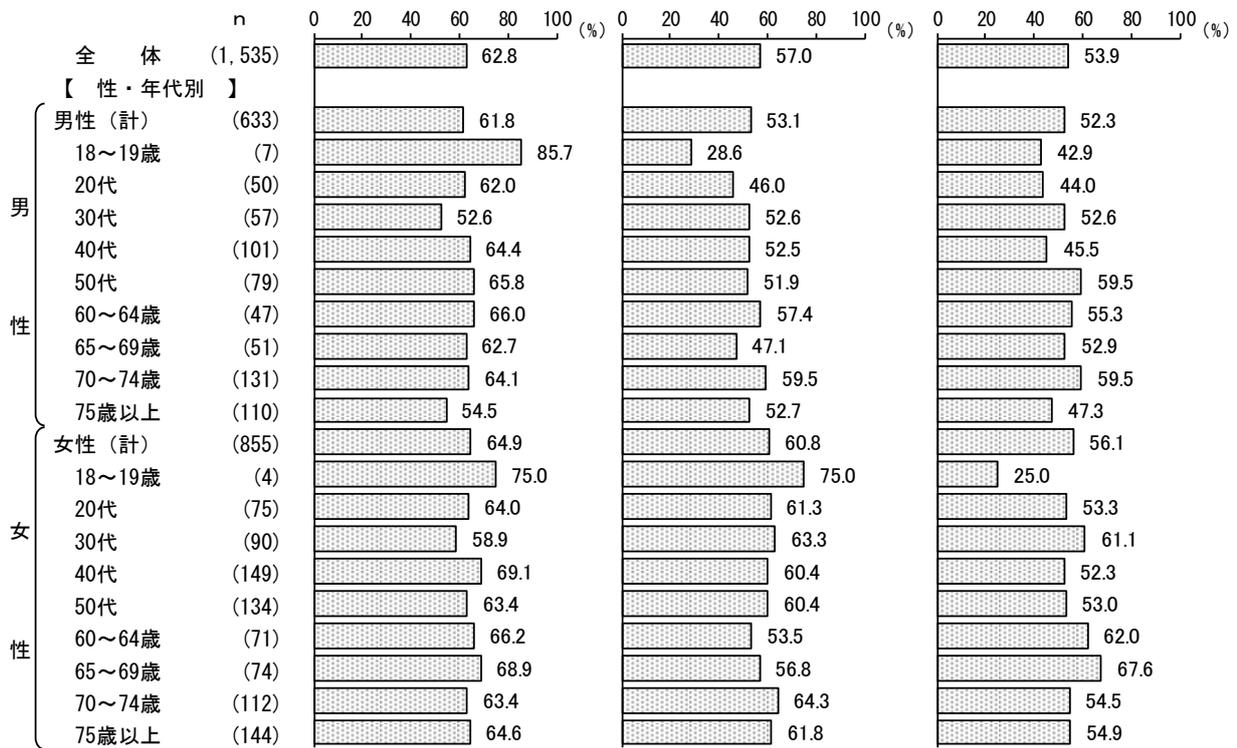
<図表9-12>男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



第67回県政に関する世論調査（R6年度）

- 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
- 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 保育及び介護の施設やサービスを充実させる



- 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
- 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する

